

第2回 移動等円滑化評価会議 中国分科会 議事録

日時：令和2年8月20日（木） 14：00～16：05

場所：広島県民文化センター5階 サテライトキャンパスひろしま 501、502 大講義室

議事：① 法令改正説明

② 中国運輸局・中国地方整備局の取組みについて

③ 移動等円滑化に関する取組み事例の紹介

④ 移動等円滑化の進捗状況等について

休憩

⑤ 意見交換（アンケート結果他）

⑥ まとめ

● 14：00 開会

● 14：01 中国運輸局 交通政策部長 挨拶

● 14：05 配布資料の確認

● 14：07～14：13 議事① 法令改正説明

運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課 梅田課長より説明

● 14：14～14：30 議事②中国運輸局・中国地方整備局の取組みについて

運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課 梅田課長

整備局 企画部企画課 亀岡課長補佐より説明

● 14：31～14：41 議事③移動等円滑化に関する取り組み事例の紹介

広島県 土木建築局 都市計画課 田中主査

広島市 健康福祉局 谷次長

広島市 道路交通局 都市交通部 古池交通対策担当課長

西日本旅客鉄道(株)広島支社 企画課 南崎調査企画室長より説明

● 14：42～14：54 議事④移動等円滑化の進捗状況等について

中国運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課 丹下専門官より説明

● 14：55～15：05 休憩

● 15：06～16：00 議事⑤意見交換（アンケート結果他）（敬称略）

議事⑥まとめ

【神田分科会長】

それでは、議事⑤意見交換を進めてまいります。

はじめに、資料5新型コロナウイルス感染症・豪雨災害アンケートについて、事前にご意見を頂いた方からお話をお聞きしまして、その後全体のご意見や前半の部の質問などございましたら、質疑応答する形ですすめていきたいと思ひます。

事前のアンケートですが、災害時、また今回の新型コロナウイルス感染症拡大の中の色々な問題の中で、移動の円滑化の重要性を考え、これらによって困ったこと、あるいは反対に良いと思つたことについて意見を頂いています。資料5をお手元に置いて頂き、ご意見や追加のコメントなど頂けたらと思ひます。

【公益社団法人認知症の人と家族の会広島県支部 村上委員】

リーフレットを配らせて頂いておりますので、家族の会は何をしているのか知って頂けたらと思ひます。

コロナウイルスにより活動が制限されて、全ての行事が中止となりました。また、病院での本人への面会が3月から中止となりました。一時期、少しの期間開放されましたが、一度面会に行って、2回目からは会えなくなりました。一時期会えた時に帰ってきたら、ショートステイから帰ってきたら10kg痩せていましたとか、歩くことができなくなりましたとか聞いております。職員さんも本当に疲弊されています。家族の人たちは職員さんに感謝をしております。

この状況の中でも、啓発活動はしなくてはいけないということで、県庁の委員会で慣れないライン会議をしたり、電話連絡をして家族を応援しております。

アンケートについては、県内20数か所の地区があり、5つのブロックに分けていますので、各ブロック代表にアンケートを送り、それをまとめました。

私もバスに乗る時はしっかり消毒しています。バスの乗客が少なくどうなるかと心配していましたが、今はたくさん乗られているので、消毒をして、押されてもそこから手を離さないようにしています。知的障害の子供もいますので、作業所に行くのにバスに乗ります。消毒・マスクをするよう言い聞かせても、障害の子供には難しいことです。

家族の会ではお互い世話になりながら、お互い協力しています。

【一般社団法人広島県手をつなぐ育成会 村主委員】

知的障害者団体ですが、複合的身体的な障害をお持ちの方もおられます。その中で、意思表示が難しい方が多くいます。保護者、施設の指導員の方々を含め、難しい状況があります。

その中で、マスクを嫌がる子供もいるので苦勞されたと聞いています。コロナ感染症の状況下で施設への通所をされている方が、公共交通機関を利用する際、周囲の方への配慮、心配もあり、状況によっては保護者が施設へ連れて行ったりと、苦勞されています。

コロナ感染症の対策については、育成会の会合にしても開くことができず、情報の連携が

難しい状況です。県大会は中止、育成会の県の総会も中止となりました。情報のやり取りをしていますが、情報の伝達が難しいような状況です。

【公益社団法人全国骨髄損傷者連合会広島県支部 村上書記長】

話をする前に、この会議は移動等円滑化評価会議という名目でやっているの、なんで、ここにコロナウイルスのこの話がはいっているのか、ちょっと疑問に思っています。資料6「その他情報交換」に書いた内容のほうが多くて、コロナウイルスに関しては単にアンケートだったのではないかと思ったのですが・・・、先に資料6について話してもいいでしょうか。

【神田分科会長】

大丈夫です。

【公益社団法人全国骨髄損傷者連合会広島県支部 村上書記長】

乗合バスのリフト化、駅プラットフォームの階段横の狭い通路、歩道の傾斜の問題があります。歩道の傾斜については前後の傾斜ではなく、雨水を流す横の傾斜について書いています。

繁華街などの駐車場、有料道路の料金所、具体的にはここで上げている道路は広島の熊野道路なのですが、ETC化されていない、コインを投入しないとイケなく、利用しづらい問題がある。有料でない方の熊野道路は前回の7月の豪雨災害の時、死者が出ている。有料の方の熊野道路がETCで使いやすかったら、ここで死者が出ているところの何人かは有料の熊野道路を通過して、助かったことも考えられる。なので、ETC化できるところはすべてETC化してほしい。

また、タクシーの利用と公共施設の駐車場の問題を書いています。

【社会福祉法人広島県視覚障害者団体連合会 橘高委員】

コロナ感染症と、移動の関係ですが、視覚障害者が移動する際に多くは移動支援、同行援護といって、ヘルパーさんを利用した移動が多くあります。そのためコロナ感染症で、同行援護が使えない。また、同行援護の事業者さんも事業縮小され、なかなか外出できないという声がありました。基本的には自粛モードで、いろんな事業が中止で家におられますが、移動する際は同行援護が使えず悩んでいる。それを受け、全国的に、同行援護は本人とヘルパーさんとの利用が原則だが、密になるということもあって、ヘルパーさんだけで買い物をしてもらえないかなどの要望を国に出し、ヘルパーさん単独で用事をすませることができるようになり、そういった面では少し助かりました。

バス利用の会員もいます。コロナが盛んな時は、バスで二人掛けの椅子が一人掛けになり、同行援護者と離れて困ったとの声もありました。

コロナ感染症の中での視覚障害者との移動については、そういった制度的に困ったとい

うことがありました。

豪雨災害の時のことも聞かせてもらいましたが、福山でも何人か、床上浸水した方があった。そういった方が、移動するのに119番等に助けを求めた時、なかなか対応してもらえなかったとの声もあった。そういった面で、平常時に、避難時の対応を勉強しないといけないとの反省の声がありました。

他の市では、視覚障害者がいる自分の地区がどんな危険な地域にあるのか、ハザードマップがイメージできないとの声を受け、行政とボランティアさんが協力し、声のハザードマップを作成して情報を伝えるようにしたという対応をされたところもあった。

避難所の設置では、視覚障害者の場合は、わからないところへの移動は困難なため避難所には行きたくないという声がたくさんある。そのあたりの対応が今後の課題であると思っています。

【一般社団法人広島県身体障害者団体連合会 村井委員】

コロナウイルス感染症ですが、マスク着用を皆さんされています。難聴者の方は、マスクを通して聞くと、聞き取りにくい。口の動きと声を合わせて聞いているので、聞き取りが難しい。対面でなく少し離れて、マスクを外して話してもらうようお願いをしている。また、レジや受付等にスクリーンの仕切りがあれば、マスクを外してもらって話をするようお願いをしています。

次に内部疾患についてですが、人工透析の方は抵抗力がないため、コロナウイルスにかけると、即生命にかかわるその危険性がある。まして今回のコロナウイルスについては、初めてのことで分からないことも多い。今年の水害の際に一番心配したのは、避難所に避難した際、密になりそこで感染したとなると、生命にかかわるその危険性があることです。高齢者の感染を一番気にしていたが、人工透析、あるいは心臓疾患の方、内部疾患の方が、コロナウイルスの状況が分からないために、感染すると生命に関わる危惧があり、一緒に避難所に行けない状況がありました。その方々はどうされたかという、親戚に避難されたり、かんぼの施設に前もって予約をとって避難された、などの対応をされました。

下肢障害や車いすの方で、一昨年の水害の時、床上浸水した。避難所は密というよりも、ベッドやトイレなどのバリアフリーがなかなか十分でできおらず、家族ともども隣町のかんぼに避難された方がおられた。今年の水害の際も事前にかんぼの宿を予約して準備されていた。避難所は密になるということと、ベッド、トイレの確保が心配で、自分でできるところは自分で対応された方もおられました。

【神田分科会長】

なぜここでコロナ、災害についてご意見を頂いたか改めて説明しますと、今までは、移動中どんな不便なことがあったか、それは例えば車両のバリアフリーであったり、各施設のバリアフリーであったり、そういった議論をしてきました。しかし、今まさにコロナの状況下

というのは、移動中のバリアがあるから移動できないのではなく、そもそも移動したくてもできない要素のほうが大きいことを我々は世の中から突きつけられているのかなと思って聞いておりました。普段の移動中のバリアフリーに加えて、そもそも移動したくても出来ないんじゃないかということもあわせて考えていきたく、事前にアンケートのお願いをしたところです。この後の意見交換でも、資料1の説明でありました心のバリアフリーということも含めてトータルに考えていきたいと思っております。

【一般社団法人中国旅客船協会 三好委員】

平成30年7月の豪雨災害の発生から1週間は道路、陸上、鉄道もかなり寸断され、特に呉線を利用されているお客様が海上交通に殺到するという事例がありました。

船舶の運航やターミナルの運営にも深刻な影響がありましたが、対応としては臨時便、直行便、臨時定員の確保の取り組みをして対応できました。しかし航路によっては通常の140倍を超えるお客様が殺到したり、船員さんや誘導員に被災者が発生するなどして、受け入れ体制をつくるのが大変難しい状況でした。

他の地域の船を利用しようとして、色々申し出もあったが、船と港湾施設がマッチングしなくて、利用を断念することもありました。輸送体制にはまだまだ問題があるかと思います。

【広島空港ビルディング株式会社 上田委員】

コロナ関連ですが、旅客施設で対応していることは、エスカレーターの手すり、エレベーターのボタン、触知案内板、筆談ボード、多機能トイレの手に触れる部分などの消毒に取り組んでいます。車椅子・ベビーカーも消毒し、使用しないときはビニールをかぶせて飛沫が付着しないようにしています。ターミナルビルの到着ロビー、出発ロビー、チェックカウンター、保安検査場など、各所に手指消毒液の設置をしています。

また、券売機やカウンター前にはソーシャルディスタンス確保の表示サインをし、各所に密集防止を呼びかけるサインスタンドを設置しています。

案内所ではコロナ感染対策の取り組みのアナウンスを流し、カウンター前にはアクリル板の設置、スタッフはフェイスガードを着用し、マスク着用にも取り組んでいます。

豪雨災害関連では、滞留されたお客様へは寝袋、毛布、食料、水を支給し、高齢者、子供、女性には会議室を開放しました。また、スタッフが適宜巡回して、お客様からの問い合わせに対応しました。アクセス案内については、ホワイトボードに記載でご案内したり、拡声器によるご案内も実施しました。

準備が足りなかった紙おむつやミルク、エアベッドは追加購入しました。また、多言語化対応ができるような防災放送装置の設置に取り組みました。

【神田分科会長】

岡山県からもアンケートを頂いていますが、欠席されておりますので、資料をご確認下さ

い。

今日頂いた話については、後ほど、資料も含めて中国運輸局HPにも掲載されることをお伝えします。

今までのご意見などをお聞きした中で、ハードの対策は確実にやっていかないといけない、心に影響を及ぼしていることもしっかり考えていかないといけない、といったところが見てとれたかと思います。残り時間で、今回のテーマに限らず、普段の移動、外出など含めて、広くご意見を頂きたい。前半の資料で質問があればあわせてお受けします。せっかくの機会ですので、色々な視点からご意見を頂けたらと思います。

【社会福祉法人広島県視覚障害者団体連合会 橘高委員】

資料6に、バス会社への要望ということで、事例発表しております。あとで読んでいただければと思います。これは、視覚障害者で透析をしている方が、広島から福山へ高速バスを利用して通っているが、バスに乗れなかった事例です。その方は、全盲で、人工透析を受けておられ、このバスに乗らないと福山で透析を受けられない時間のバスだった。それに乗れなかったなのでその日は透析を受けられず、次の日にまた広島まで来て透析を受けられた、という事例です。運転手さんとのコミュニケーションがとれなかったため乗車できなかったという事例ですが、この事例を受け、当連合会では、施設利用者の立場から、このバス会社及び他のバス会社3社に要望書を出しました。それに対して3社から回答を頂きまして、こういった事例が発生しないように、社内研修や運転手への徹底など、前向きに対処しますという回答書が来ました。こういった事例があれば、速やかに動けば何らかの反応があるかと思っています。

それと、先ほどの説明で福祉タクシーの整備というのがありましたが、福祉タクシーの定義があれば聞かせて頂きたい。車両の構造なのか、運転手と車両との関係なのか。

【事務局 消費者行政・情報課 梅田課長】

まずバスのほうは、頂いたご意見を担当課と情報共有してまいります。福祉タクシーの定義は、詳しい定義は今申し上げることができないので、皆様にメールで正式な回答をさせて頂きたい。

【神田分科会長】

バスの事例についてですが、当該バス会社だけでなく、広く、タクシー、電車、旅客船も含めて事例を共有して、交通全体のサービスのレベルアップが計れていけばいいなと考えています。

【公益社団法人全国骨髄損傷者連合会広島県支部 村上書記長】

資料の中を見ていて気になるのは、障害者の移動は、必ず介助者が付いている前提で考え

られているのかなということ。脊髄損傷者の大半は、単独で行動している。単独で行動するので色々不便だとか、ここが危険だとか気付くが、その観点で捉えられていないように感じる。移動は介助者がいるという前提で物事を捉えているように感じる。

あとひとつ気になるのが、ハード・ソフト取組計画があります。これはトップダウンで作るのか、ボトムアップで作るのが気になることです。今までは障害者を含めず、トップの人だけが推測で計画されてきた気がします。ボトムアップで要望を吸い上げて計画を作っていないんじゃないか。どうやって取組計画を作ろうとしているのかお聞きしたい。

【神田分科会長】

2点、障害をお持ちの方の移動についてどういう想定をしているか、ハード・ソフト計画が現場からなのかトップダウンなのか。経緯を含め事務局からご回答いかがでしょうか。

私の理解だと、今までの移動円滑化の考え方と、去年この会議が始まってからの考え方が変わりつつあるのかなという気がしています。おそらくどちらかということこれまでは、トップダウンの色が強かったのかなという印象がある。資料にもありますが、移動等円滑化の進捗状況の数値目標、達成目標が出ています。全国と並べてしまっていて、なかなか実態が肌に合わないという印象を持っている。駅のバリアフリー化の状況などの指標があった時に、広島があまり高くないという風になっているが、広島の路面電車などを見ての感覚と合わない。中国地方でも分科会が設けられ、現場からしっかり考えていこうよという考え方にシフトしていると私はとらえているが、国全体の動きとして、事務局からなにか補足があればお願いします。

加えて、前回会議の中で、障害をお持ちの方は極めて多様化しているということも、バリアフリーの議論が出始めた20年ぐらい前にはなかなかなかった視点でもあるという気もしていて、ちょうどその転換期になるのかなというところで、トップダウンでは見えてこない問題というのがいっぱい出てきているのかなと。私自身はボトムアップの視点でも考えていくべき問題かなと思っております。

事務局から補足がもしあればいかがでしょうか。この理解で間違っていないでしょうか。

【事務局 消費者行政・情報課 梅田課長】

事務局としましては、座長が今おっしゃられたお考えで間違いはないと考えます。

【神田分科会長】

新しい視点が必要になってきて、こういった議論が始まりつつあるということでご理解くださればと思います。

【特定非営利活動法人障害者生活支援センターてごーす 畑委員】

アンケートに関して、私はコロナの影響で在宅勤務になっていて、てごーすの事務所から

メールが来るのが遅く、アンケートが間に合わなくても申し訳ありません。

アンケートについて、改めて、提出しようと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【事務局 消費者行政・情報課 梅田課長】

是非、お願いします。

【特定非営利活動法人障害者生活支援センターてごーす 畑委員】

昨年の会議でも同じことを言っていますが、できれば複数回開催して頂けないかという思いと、身体障害者や知的障害者、精神障害者など 3 つに分けて行うだとか、電車なら電車、バスならバスだとか、カテゴリー別におこなっている分科会もあるので、カテゴリー別に開催して頂けないか。移動円滑化の評価会議の分科会議ごとに温度差があるなど感じています。全体会議ではなく分野ごと、障害別に会議を開くことも考えられるのではないかと考えています。

それと、実体験から話しますと、JR新井口駅と広島電鉄商工センター入口駅の乗換えの問題ですが、新井口駅の改札を出て商工センター入口駅のホームまで降りるのに、健常者だと、階段で降りるだけなので1分40秒くらいですが、車椅子で実際に行くとアルパークとの連絡通路の長いスロープを降りて行って、14分ぐらいかかる。先ほど広島市さんが話をされていましたが、乗換えの問題などが出ているかどうかお聞かせください。

【広島市道路交通局都市交通部 古池交通対策担当課長】

ただ今ご質問を頂きましたのはJR新井口駅から広島電鉄商工センター入口駅に乘換えるということですね。新井口駅のホームについては、上り線の整備に向けて色々調整を行っています。商工センター入口駅については、広島電鉄さんも検討はされている、ただ現時点では時期ははっきりとは言えない、ということをお聞いております。

てごーす様からご意見ご要望を頂いたことは、広島電鉄さんに伝えさせて頂きたいと思っております。

【神田分科会長】

一年に一度の開催という形になっておりますけども、会議の形でやるかどうかはさておき、意見をやり取りする方法は今後探っていくべきかと思っております。色々考えていくべきことが非常に多様化していく中で、もっと議論が必要というのは、おっしゃるとおりかと思っております。

【公益社団法人認知症の人と家族の会広島県支部 村上委員】

お願い事が1件ございます。今のバリアについては、ハード、ソフト面、こういう機会を持って頂き大変うれしく思っております。苦労はあると思いますが利用者の意見を聞いて

いただき、うれしいことでございます。

それをお願いというのは、毎日のようにバスにみんな乗っています。認知症の人達も一緒に乗車しますが、バスに乗ると案内が優しく放送され、運転手さんの言葉もありますが、時に、2度ブレーキを踏まれるんですね。止まる案内があつて、「止まってから立ってください」と言われるので、止まったと思って立とうと思うと、そこでブレーキを踏まれることがあります。私もブレーキで怪我をしたことがあるんですが、是非車内放送と同じように優しい運転をして頂けたらと思います。立とうかと思うと二度ブレーキを踏まれると混乱しますので、配慮をお願いします。

【神田分科会長】

時間がまいりました。もっと議論して幅広くご意見を頂きたかったのですが、時間になりましたのでまともに入っていきたいと思います。限られた時間の中での議論ですけども、私自身が会議で感じたことをいくつか申し上げたいと思います。

一つ目、トップダウンかボトムアップかという話がありましたが、やはり基盤としてのバリアフリーの施設整備は着実に進めていくべきだと思います。色々な車両・施設のバリアフリー化についての数字が出ておりましたけども、これを遅らせることは当然あってはならない。こういったことは進めていくべきと思っています。

二つ目、コロナや災害などといった要素が、移動そのものを取り上げてしまうことになったのは、本当に心の痛い問題であつたりします。これがなにかの工夫で実は行けたのになということがあつたのだらうなと思うのです。こうしたことをきっちりと検証していくべきだと感じました。

心のバリアフリーという言葉は今回の会議で初めてでできましたけども、心のバリアフリーという言葉が含む範囲というのはけっこう幅広いところであつて、深掘りして整理すべきかなと思います。中国5県、広島だからこそ2年前の災害を経験した中での心のバリアフリーを捉え方が別途できると思うので、このあたりうまく整理していけたらなと思っています。

三つ目、途中ご質問に答えるかたちで私自身の私見を申し上げましたが、20年くらい前にバリアフリーという言葉が出てきた頃と今を考えると、前提が大きく変わってきていると思います。介助者がついて一緒に移動するという形ではなくて、自らが移動される方、専門的な言葉を使いますと自律的移動支援ということもあると思うんですが、そういった中で、移動のパターンであるとか、行動範囲、ライフスタイルを含め当初の想定から全く変わっているところが非常に多いかなと思います。どう変わったのかはむしろ現場の皆様からの声をボトムアップであげていかなければいけないといったところが非常に重要かと思います。これはトップダウンでは見えないところがあつて、その中でいかに進めていくのかは、トップダウンをうまく使いつつ、ボトムアップでこういう風にやっていったらいいよねというような議論もしていきつつ、進めていくことが今後、大切なのかなと思っています。

四つ目、意見を交換する場をうまく持てないかという事です。コロナで集まってできないという要素もありますが、集まる以外にも意見を交わす方法というのはいくつかあるかなと思います。できれば顔をあわせていろいろ話ができたらと思います。資料6にありましたが、バスで福山と徳山を聞き間違えるなど、小さい話かもしれませんが実は非常に大きい話で、こういった一個一個の積み重ねで移動しやすい環境が実現していける可能性も非常に高いわけです。これも心のバリアフリーの1つであって、こういったきめ細やかな部分を積み重ねていけるような意見交換の場をつくることはできないかとも思います。中国5県の話もそうですし、全国の話もそうだと思いますけども、大きい要望みたいな話もそうですし、こういった一つ一つのちょっと嫌だったねという話を気兼ねなく情報共有できる場が作れたらいいかなと思っています。

短い中で頂いたお話の中で、ETCの話もまさにそうだったのですが、なかなかこういうことを我々が気付かなかったところでもあって、だけど普段こういった施設がこういう視点でも必要なのだとか、今まで論じられてこなかったと思います。そうした中で、なぜこれが必要なのかという議論の中でも、今日の議論、今後なされるであろう議論の役に立ってくるはずなので、そうした中でいろんな方々にとって移動しやすい暮らしやすい社会が実現できるためのプラットフォームとしてこういった会議が機能すればと思っています。

● 閉会